平成27年６月30日

砺波医師会誌
杏和だより

第203号

◇◇◇　目　　次　◇◇◇

〔時　　評〕・患者さんと話しませんか？ …… 金井　正信　2
〔砺波医師会役員〕 …… 4
〔活動報告〕 …… 6
〔市民公開講座〕・タバコと肺癌
～砺波市から肺癌死亡を減らすために：禁煙と検診のすすめ～ … 清水　淳三　10
〔散 居 村〕・北陸新幹線 …… 坂下　泰雄　12
・終末期ケアとものがたり …… 佐藤　伸彦　13
・老犬介護 …… 杉下　尚康　14
・平成24年４月から …… 杉本　立甫　15
・「オニが出る」 …… 住田　　亮　16
・中国研修生との交流 …… 高木　泰孝　17
・五月の旅行 …… 髙橋　暢人　18
・「片付けの流行」 …… 髙橋三千代　19
・母体急変時の初期対応（京都プロトコール）に参加して … 津田　　博　20
〔新入会員紹介〕 …… 市立砺波総合病院　産婦人科　稲坂　　淳　21
ものがたり診療所　川渕奈三栄　22
市立砺波総合病院　集中治療・災害医療部　廣田幸次郎　23
〔編集後記〕 …… 山田　泰士　24

発行所　砺波市幸町６番４号
砺 波 医 師 会
発行人　砺波医師会長　金　井　正　信

時　評

患者さんと話しませんか？

力耕会金井医院
金　井　正　信

小泉内閣のころから、医療も金で考える風潮が高まりました。医療政策にも一般の産業と同じように経済原理が導入され、医療費削減計画が断行されました。その結果、全国で多数の中小の病院が閉院または規模の縮小を余儀なくされました。行政からの医療費に対する風当たりが強くなり、診療報酬改定のたびに、実質的にはマイナス改定が繰り返されてきました。本年の大幅な介護報酬の改定でも、来る高齢化社会に向けて介護事業を一つの産業として育てようといった試みは読み取れず、従事者の報酬増には、とても至らないものでした。政府からは、医療と介護は、金食い虫の邪魔者、消えてなくなれといった扱いです。

しかし、第一線の現場にいる私は、医療が金食い虫だとか、社会資源の無駄遣いだと主張し、受ける医療を自ら制限しようとした患者さんに遭遇したことはありません。介護サービスの不足を嘆く家族にはたびたび接するのですが、無駄な施策と不満を述べる介護者には会ったことがありません。私たち医療を提供するものも医療と介護体制の充実を強く望んでいます。医療を提供する側と、納税者でもある医療介護を受ける側の想いは一致しています。

しかしなぜか現実は異なる方向へと進んで行っています。

マスコミの世界では、薬漬け、検査漬け、過剰診療など診療にかかわること、不正請求、水増し請求、架空請求など診療報酬請求の問題、誤診、医療事故、薬害など医療の質にかかわることなど、さまざまな医療に対する問題事象が報道されています。また、あまり第一線での経験がなさそうな放射線科の先生の医療否定の文章や、週刊誌による飲んではいけない薬のリストの発表など現状の医療に対するネガティブキャンペーンをよく目にします。

一方、このような医療批判に対して、日本医師会が理論立てて反論する場面はあまり伝わってきません。また、私たち医師会員も患者さんから問われると答える程度で、こちらから積極的に話しかけることはなかったと思います。

いま私たちは大ピンチです。このまま押し切られるようでは、医療介護の現状を維持することは困難です。国民皆保険制度も変えてしまわれそうです。一発逆転の秘策はありません。私たち医師一人一人の想いを、地道にコツコツと患者さんに話していくしかないようです。ここ１～２年でこれからのことが決まりそうです。危機感を持って自分のできる範囲で患者さんやその家族に話していくしかなさそうです。

できれば誰か、難病の消化器疾患を最新の医薬品で克服され、医療の恩恵を最も受けられた宰相（健康保険を使ったかは不明）に、「今の医療制度は素晴らしいのですよ」とささやいてくれませんか？

砺波医師会役員

① 砺波医師会担当業務
（平成27年６月～29年６月）
② 富山県医師会担当業務
（平成27年７月～29年６月）

金井会長

杉下副会長

監事		理事							副会長
豊田　葉子	住田　亮	柳澤　伸嘉	網谷　茂樹	藤井　正則	山下　良平	大澤　謙三	伏木　弘	伊東正太郎	杉下　尚康
②男女共同参画	②乳幼児・学校保健	①広報・ネットワーク、地域保健、特定健診・特定保健指導 ②広報、地域保健・健康教育、特定健診・特定保健指導	①救急医療・急患センター、広報・ネットワーク ②医療情報システム、救急医療、学校心臓検診	①産業保健・防災、庶務・会計・記録、准看護学院 ②産業保健・健康スポーツ	①学術・生涯教育病診連携、在宅医療 ②学術・生涯教育、環境保健、障害者福祉医療、がん検診特別	①在宅医療 ②在宅医療支援センター協議会	①保険診療部会、介護保険 ②社会保険、在宅医療・介護保険	①病診連携、地域保健 ②勤務医部会	①庶務・会計・記録 ②医療安全対策

議長	仲村　洋一		副議長	吉田康二郎		
顧問	平川　秋彦	河合　康守	髙橋　卓朗	永井　忠之		
裁定委員	吉田　武雄	金木　精一	福井　悟			

役職名	氏名
砺波医療圏急患センター所長	金井　正信
富山県医師会理事	河合　晃充
富山県医師会代議員	金井　正信・杉下　尚康
富山県医師会予備代議員	伏木　弘・藤井　正則
富山県医師会裁定委員	仲村　洋一
富山県医師国民健康保険組合理事	山本　郁夫
富山県医師国民健康保険組合組合会議員	坂下　泰雄
富山県医師信用組合理事	網谷　茂樹
富山県医師協同組合理事	杉下　尚康
富山県医師協同組合総代	永井　忠之・吉田康二郎
	柳下　肇・豊田　葉子
富山県医師連盟執行委員（支部長）	杉下　尚康
富山県医師連盟執行委員	金井　正信・河合　晃充

【関係団体委員等】

【砺波市】

役　　職　　名	氏　　名
砺波市健康づくり推進協議会委員	柳澤　伸嘉
砺波市訪問看護事業運営委員（４名）	金井　正信、杉下　尚康
	大澤　謙三、山下　良平
砺波市障害程度区分判定等審査会委員（２名）	福井　靖人、山下　良平
砺波市歯科保健推進協議会委員	大澤　謙三
砺波市防災会議委員	金井　正信
砺波市国民保護協議会委員	金井　正信
砺波市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク運営委員	金井　正信
砺波市国民健康保険運営協議会委員	杉下　尚康、網谷　茂樹
砺波市医療連携協議会	金井　正信、山下　良平、佐藤　伸彦

【市立砺波総合病院】

役　　職　　名	氏　　名
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会委員	杉下　尚康

【砺波広域圏関係】

役　　職　　名	氏　　名
砺波地域メディカルコントロール部会委員	網谷　茂樹

【砺波地方介護保険組合】

役　　職　　名	氏　　名
砺波地方介護保険推進委員会委員	山本　郁夫
地域包括支援センター運営協議会委員	山本　郁夫
介護認定審査会委員（８名）	大橋　雅広、井上久美子
	佐藤　重彦、佐藤　伸彦
	酒井　伸也、乗杉　　理
	津田　　恵、湯浅　雅志

【富山県砺波厚生センター】

役　　職　　名	氏　　名
肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会委員	金井　正信
砺波地域医療推進対策協議会委員	金井　正信

【富山県】

役　　職　　名	氏　　名
富山県肝炎診療協議会委員	金井　正信
富山県透析患者等発生予防推進連絡協議会委員	杉下　尚康
富山県医療審議会委員	金井　正信
富山県医療対策協議会委員	金井　正信

【富山県済生会高岡病院】

役　　職　　名	氏　　名
富山県済生会高岡病院病診連携システム運営委員会委員	金井　正信、杉下　尚康、伏木　弘

【厚生連高岡病院】

役　　職　　名	氏　　名
厚生連高岡病院病診連携運営委員会委員	金井　正信、杉下　尚康

活動報告

（平成26年11月～平成27年４月まで）

平成26年11月

1日　砺波医師会・砺波市歯科医師会合同研修会

10日　第８回理事会

砺波在宅医療支援センター運営委員会

12日　砺波地域医療推進対策協議会　急性心筋梗塞部会

14日　富山県医師連盟常任執行委員会

16日　市民公開講座

糖尿病に負けない！～大切な食事と運動～

「今日から始める運動療法」

市立砺波総合病院　内分泌内科部長　早川　哲雄

「減らすより足す！」～食欲コントロールの９か条～

金沢大学医薬保健研究域医学系　包括的代謝学分野　教授　篁　俊成

20日　砺波地区病診連携カンファレンス

21日　砺波准看護学院50周年記念事業運営委員会

25日　学術講演会

「ＮＯＡＣ時代の不整脈治療」

金沢大学医薬保健研究域保健学系　准教授　古荘　浩司

平成26年12月

8日　第９回理事会（移動）

砺波在宅医療支援センター運営委員会

社会保険委員会（県医）

10日　砺波地域医療推進対策協議会　がん部会

18日　市立砺波総合病院　肝臓病教室

平成27年１月

13日　第10回理事会

　　砺波在宅医療支援センター運営委員会

15日　砺波地区病診連携カンファレンス

20日　平成26年度砺波圏域地域リハビリテーション連絡協議会

22日　平成26年度地域産業保健センター全体協議会

24日　富山県医師会と語る、新春の集い　医療政策セミナー

26日　富山県医療推進協議会

　　学術生涯教育委員会（県医）

27日　学術講演会

　　「Ｃ型肝炎の最新治療」

　　市立砺波総合病院　副院長　　河合　博志

28日　在宅医療支援センター研修会　在宅医療支援講座

　　砺波地域災害医療連携会議

29日　第２回砺波市福祉計画策定委員会

31日　平成27年度砺波准看護学院一般入試

平成27年２月

2日　平成26年度富山県肝炎診療協議会

5日　平成27年度砺波准看護学院一般入試合否判定会議・運営理事会

　　砺波地域医療推進対策協議会　在宅医療部会

6日　平成26年度糖尿病対策推進強化事業連絡会議

　　富山県在宅医療支援センター協議会

8日　市民公開講座

　　あなたと家族のために禁煙しましょう！

　　「タバコと肺癌」

　　北陸中央病院　院長　　清水　淳三

9日　第11回理事会

　　砺波在宅医療支援センター運営委員会

10日　砺波准看護学院一般入試合格発表

13日　砺波地域産業保健センター第２回運営協議会

15日　砺波市在宅医療・在宅介護連携推進研修会

17日　肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会

19日　第２回砺波厚生センター地域・職域連携推進協議会

砺波厚生センター献血推進協議会

市立砺波総合病院　肝臓病教室

平成26年度砺波医療圏結核予防医師研修会

「管内の結核の現状と結核管理について」

富山県砺波厚生センター所長　大江　浩

「当院における肺結核の診療」

富山県立中央病院　内科医長　谷口　浩和

20日　産業医研修会

「事例検討会」

富山産業保健総合支援センター相談員　大橋　信也

24日　学術講演会

「病診連携に必要な急性冠症候群の薬物療法」

富山県立中央病院　内科（循環器）部長　永田　義毅

26日　砺波地域ＭＣ部会

砺波医療圏における脳卒中地域連携パス研修会

平成27年３月

4日　富山県　立入検査

5日　第49回砺波准看護学院卒業式

広報委員会（県医）

6日　県・郡市医師会協議会

9日　第12回理事会

砺波在宅医療支援センター運営委員会

10日　富山県医師連盟執行委員会

18日　砺波地域医療推進対策協議会

19日　砺波地区病診連携カンファレンス

20日　第３回砺波市福祉計画策定委員会

22日　平成26年度第１回臨時社員総会

学術講演会

「吸入ステロイドの理論と使い分け」

富山市立富山市民病院　呼吸器内科・腫瘍内科　部長　石浦　嘉久

25日　救急医療委員会（県医）

26日　第189回富山県医師会臨時代議員会

27日　平成27年度介護報酬改定説明会（県医）

平成27年４月

9日　第51回砺波准看護学院入学式

13日　第１回理事会

砺波在宅医療支援センター運営委員会

16日　市立砺波総合病院　肝臓病教室

21日　地域医療・保健事務懇談会

28日　学術講演会

「腹水治療におけるトルバプタンの使用経験」

富山県立中央病院　内科（消化器）副医長　原　泰将

「消化器疾患最新の話題」

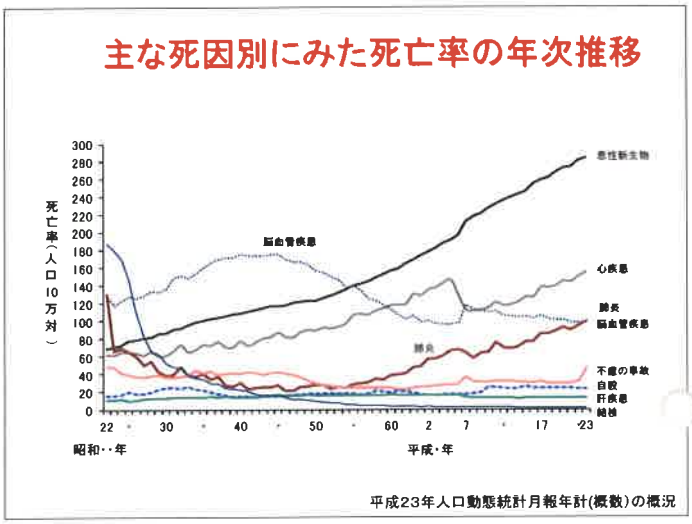
富山県立中央病院　内科（消化器）部長　松田　充

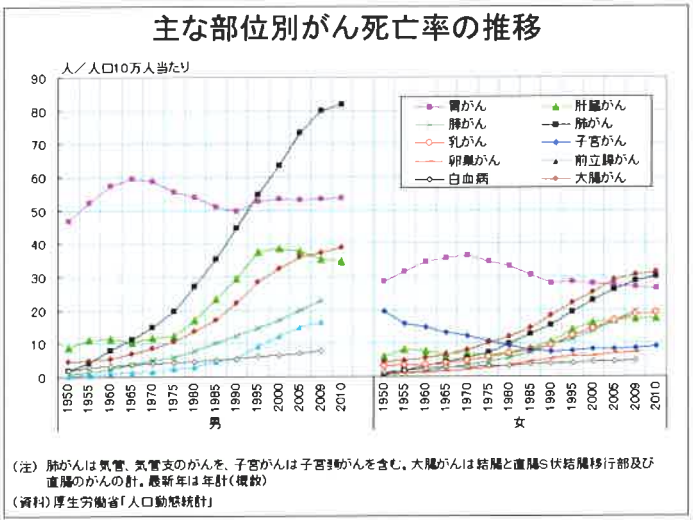
市民公開講座

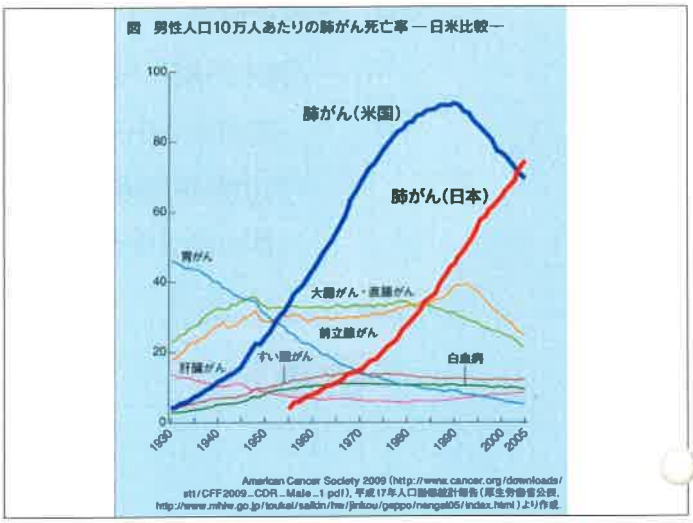
タバコと肺癌

～ 砺波市から肺癌死亡を減らすために：禁煙と検診のすすめ ～

北陸中央病院　病院長　　清水　淳三





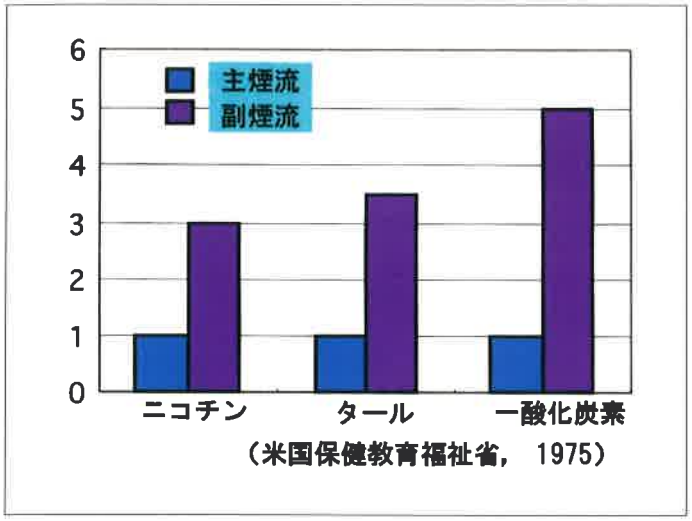


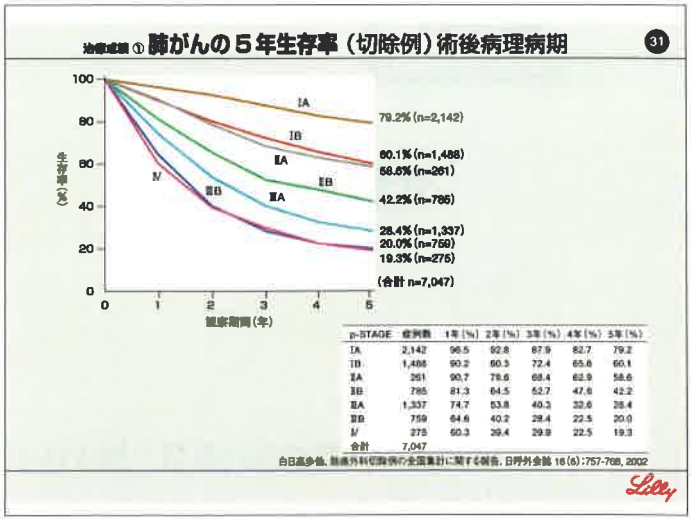
タバコと肺癌

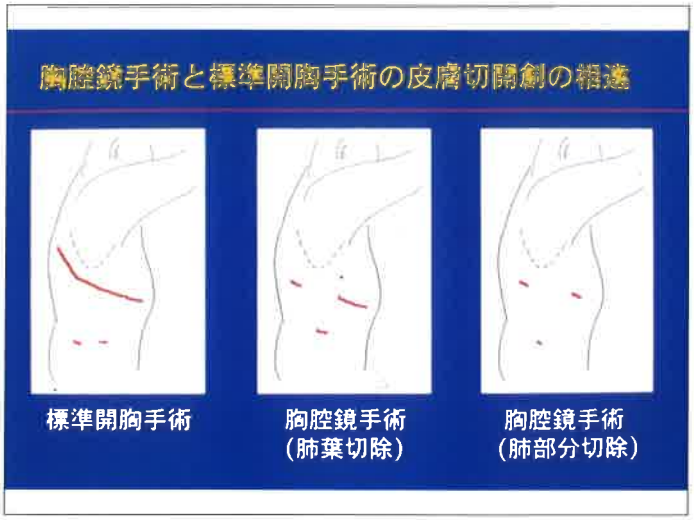
1) 吸った本数が多いほど，肺ガンになるリスクが高い．

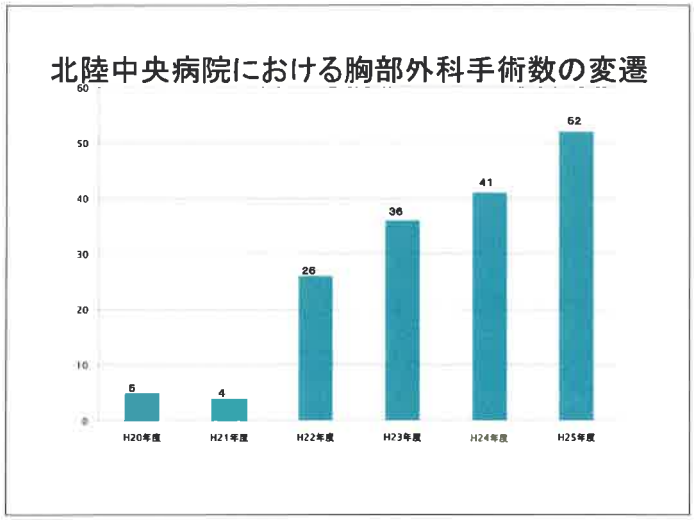
2) 喫煙開始年齢が低いほど，肺ガンになるリスクが高い．
（中学生，小学高学年生に対する禁煙教育）

3) 禁煙キャンペーンが行き届いた国では肺ガンが減りだした．
（フィンランド，イギリス，オーストラリア，アメリカ）

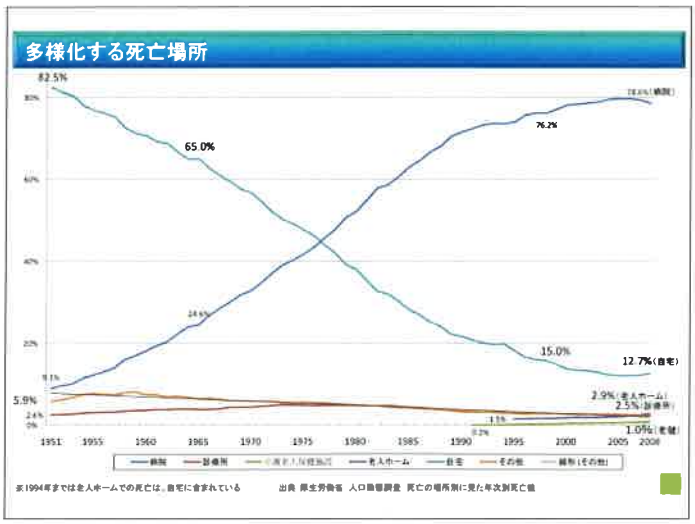

6
5
4
3
2
1
0
主煙流
副煙流
ニコチン
タール
一酸化炭素
（米国保健教育福祉省，1975）


31
肺がんの５年生存率（切除例）術後病理病期
生存率(%)
観察期間(年)
IA
IB
IIA
IIB
IIIA
IIIB
IV
79.2%(n=2,142)
60.1%(n=1,488)
58.6%(n=261)
42.2%(n=785)
28.4%(n=1,337)
20.0%(n=759)
19.3%(n=275)
(合計 n=7,047)
白日高歩他. 肺癌外科切除例の全国集計に関する報告. 日呼外会誌 16(6):757-768, 2002


胸腔鏡手術と標準開胸手術の皮膚切開創の相違
標準開胸手術
胸腔鏡手術
（肺葉切除）
胸腔鏡手術
（肺部分切除）


北陸中央病院における胸部外科手術数の変遷
5
4
26
36
41
52
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度

公立学校共済組合　北陸中央病院
小矢部市野寺123　　TEL　0766-67-1150
急性期病床の他に、療養病床もあります。また、人間ドックやセカンドオピニオンなど診療以外にもご利用下さい。


多様化する死亡場所
82.5%
65.0%
76.2%
15.0%
12.7%(自宅)
5.9%
1951
1955
1960
1965
1970
1975
1980
1985
1990
1995
2000
2005
2006

散居村

北陸新幹線

さかした医院
坂　下　泰　雄

北陸新幹線の開業前後のお祭り騒ぎはようやく収まってきました。今のところ業績は順調に推移しているようで、なによりです。

私はまだ新幹線で東京方面へ向かったことはないのですが、開業初日に新高岡駅から金沢駅まで乗車しました。これから先、新幹線を利用することはあっても、開業当日はこの日だけです。それに、もう生きているうちに地元で鉄路が開業することはまずないと思われます。そうです、単なる興味本位、記念乗車です。

やっぱり速いですねえ。高岡から金沢までが10分ちょっとですよ。しかもトンネルを過ぎてからはもう減速し始めるのに、この速さです。ひやーっと言っている間にもう着いていました。

速さにはもちろんびっくりですが、どっきりしたのは、列車を待つ間に目の前をかがやきがびゅわーん、びゅわーんと超特急で新高岡駅を素通りして行ったことでした。高岡で生まれ育ってこのかた、高岡駅といえばすべての列車が停車する駅でした。その高岡駅を、頭に新がついたとはいえ、当ったり前だのようにビヤーッと通過して行く。さみしいもんですねえ、おぞいもんですねえ。高岡格付けツーランクダウン…orz、とぼんやりしていたら通過時の圧迫感によろついてしまいました。

私のジャズ仲間でベーシストのO君のブログにこんなことが書いてありました。

何度か新幹線で東京へ出張に行った方の感想。

初めての時は、あれ？もう長野か、と思った。

２回目の時は、ああ、長野か、と思った。

３回目の時は、まだ、長野か、と思った。

４回目の今日は、やっと長野か、と思う。

便利にはすぐに慣れて、感動は薄れて行くのですね。

さて、次の東京行きは何時の飛行機にしようかなぁっと。

終末期ケアとものがたり

ものがたり診療所
佐　藤　伸　彦

ナラティブとは「ものがたり」という意味です。病気というものはその人の一側面を見ているだけです。長い人生の中で私たちはいろいろな事情を抱え、自分なりの価値観をもって生きています。病気という一面だけで終末期ケアはできません。

私達の人生はまさに物語です。また日々の生活も「語る」ということによって成り立っています。語ること／語られることを大事にし、終末期の方の最期の時間（人生）を生ききっていただきたいという思いでナラティブホームという造語を作りました。

理屈ではなく、私達は人の死を受け入れていかねばなりません。例えどんな高齢者でも、家族にとって本当に「満足」した、「平穏」な「死」というものはありえないのです。どこかに妥協や諦めが必ず混在します。「死」が避けられないことは誰もがわかってはいます。わかっていることと、目の前の死を受け入れ納得することとは根本的に違うのです。「あの家族は患者さんの現状を受け入れてない。」というような言い方がありますが、それは違います。

家族は、どんなにその人が医学的に瀕死の状態であってもう助からないと理屈では分かっていても、それでもなお、現在の状況から少しでも悪くならないことを強く願うものなのです。お願いだから明日も今日と同じ状態でいて欲しい、と祈るものなのです。医療関係者には瑣末な問題だと思われることが、家族にはとてつもなく重大な問題なことも多々あります。

現状を受け入れられない家族がいるのではなく、そういう家族を受け入れられない医療スタッフがいるだけです。

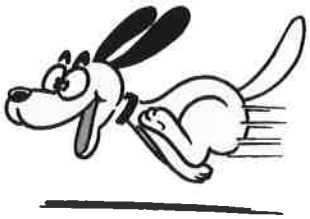
人はそう簡単に諦めきれるものではありません。

家族が「もう、歳だからねぇ。」とつぶやく声には、今まで生きてきた本人と家族との関係性が浮かび上がります。厳しい現実をうけいれるためには心の中での葛藤が必要です。家族の心情とはそういうものです。その心情にどれだけ配慮できるかがケアの質をきめるとも言っていいと思います。

老犬介護

宏仁堂　杉下医院
杉　下　尚　康

我が家には今年の７月12日で満13歳になるダルメシアンがいます。
大型犬の寿命は平均12～14歳といわれており、まさに適齢期です。
でも、全く年齢を感じさせないくらい元気でした。ところが今年３月頃から急速に衰えはじめ、歩く速度がゆっくりとなり、後ろ足がもつれ、階段の昇り降りがへたくそになりました。最初は体調が一時的に悪いのかと思っていましたが、どうもそうではなさそうです。いつも犬を預けるおばちゃんに聞くと即座に返事が返ってきました。「老化です。」そう言われてみれば思い当たることがあります。排便・排尿時の切れが悪い、後ろ足を踏み外す、低いところでもジャンプして登らなくなった、後ろ足を引きずるように歩くので爪のこすれる音がするなどです。３月までは本当に元気でこれなら15歳まで行けるかなと思っていましたが、雲行きが怪しくなってきました。最近では「こんな物効くはずがない」と思いながらネットで手に入れた大正製薬のグルコサミン、コンドロイチン、コラーゲンの錠剤を毎日の食事に混ぜています。親ばかならぬ飼い主ばかでしょうか。最近のペットの雑誌には必ず老犬の特集や介護の相談のコーナーがあり、ペット用品のカタログは介護用品のオンパレードです。いよいよ我が家も老犬介護の覚悟をしなければならない時期が来たようです。しかし今はただ愛犬の長寿を願うばかりです。



平成24年４月から

杉　本　立　甫

平成24年４月から、それまで35年間務めた市立砺波総合病院を退職し、金子教授からの依頼で金沢聖霊総合病院　院長として仕事を始めました。

初めは都市部の病院で、しかも街の真ん中にある病院ということ、更にカソリックの病院ということが気になりました。また２年後には病院の新築工事が現在地で始まることが決まっていました。しかしどのような病院にして、何を主にやっていくか、どのような医療機器を整備するかなど多くのことが決まっていない状態でした。ただ産婦人科と検診は今までも病院の中心でありましたのでそれはこれまでと同じにやって頂くことは暗黙の了解でした。

産婦人科は石川県立中央病院から朝本先生に来ていただき、産婦人科の整備と手術場の整備をお願いしました。

検診、一般診療とも診療の精度を上げる必要があると考え、電子カルテ導入と新病院建設に合わせ、ＣＴ、ＭＲＩや一般放射線機器をすべて更新しました。また２年前から皆さんもよくご存じの角田先生に来ていただき、読影や超音波検査を全てやって頂いています。内視鏡は金沢大学第一内科から週５日応援をお願いしています。

以前から「地域の皆さんに使って頂けない病院は存続しない。」という言葉がありますが　当院周囲は金沢市の中でも一番高齢化率の高い地域で30％を超えており、独居老人も多いこともわかってきました。そこで地域の皆さんに使って頂ける病院を目指して、病診連携、病病連携を行うため、地域連携室を立ち上げ、ＭＳＷを採用し、電子カルテも立ち上げました。

今年８月にはすべての工事が完成し、９月に創立100周年の式典を行う予定となっています。これからが勝負と考えているところです。

なお　水曜日午前中砺波総合病院で診療しています。また国保審査会はあと１期務めることとなりましたので今後ともよろしくお願いいたします。

「オニが出る」

住田小児科医院
住　田　　亮

「住田小児科にはオニが出る」こんな話が近隣の保育園児たちの間で都市伝説のように伝えられている・・・らしい。

小児科クリニックなので当然相手は子供ばかりで聞きわけのいいお利口さんばかりではない。待合室はもとより診察室でもチョロチョロ動き回ってあちこち悪さをする。甚だしい子になると机の下に潜って電カル用ＰＣの電源を切ろうとするからしゃれにならない。患者さん本人は病でぐったりしていても代わりに付き添い(？)の兄弟達が暴れまわる。そんな時に「オニ」が現れる。もちろん実物がいるはずはなく「悪い子が大好きなオニがいる、呼ぼうか？」と言っておとなしくさせるための空想キャラである。なーんだと思うなかれ、文字通り子供騙しだが対象を選べば声を荒げて叱るよりずっと効果的、大概の子は聞いた瞬間にピタッと動きが止まりそーっと周囲を見回す。だいたい３～６歳の特に男児であれば魔法の呪文のように効くがさすがに小学校に入ると信じなくなる（この頃には分別もついて悪戯も減るからさして問題はない)。また何度もこの手を使うと抗生剤のように耐性が付いて「ふん、オニなんて来んわい！」と言い出すので「オニは今アピタで買い物しているがすぐに帰ってくる」とか「２階でお茶を飲んでいるけど呼べば降りてくる」など色々なパターンを作って対抗する。さらに小道具として診察机の上に不要になった携帯電話を置いておきそれを見せながら「オニに電話する」と言うとより一層の効果が期待できる。オニは年間を通して有効なキャラだが期間限定で威力絶大なのが「サンタクロース」だ。だいたい11月終わりから年末まではサンタネタがメインになる。この時も活躍するのが机上の携帯電話で季節になると大きめのサンタシールを貼って「サンタ直通フォン」にする。いたずら小僧に電話を見せて「サンタに悪い子がいると電話する」と言うとサンタのありがたみを知っていればいるほどお行儀が良くなる。

そんな「オニ」や「サンタ」を素直に信じる子供達を見ているとちょっとうれしくなる。それで調子に乗って診察の度に「オニ」出して子供をからかっていると後方から「診察が予定より遅れています！」と本物の「鬼」に怒られた。

中国研修生との交流

市立砺波総合病院
整形外科・リハビリテーション科
高　木　泰　孝

いままで３名の黒竜江省省立医院中国研修生との出会いがありました。

平成18年３月３日から１年間当院整形外科に整形外科王　岩先生が研修に来られた。中国研修生にとって実績を残すことも必要と考え、平成18年10月６、７日に神戸で開催された第107回中部日本整形外科災害外科学術集会で発表して頂き、論文も掲載された。

次に平成20年９月１日から１年間リハビリテーション科商　暁英先生がリハビリテーション科影近謙治先生の下で研修された。平成21年４月９、10日に京都で開催された第112回中部日本整形外科災害外科学会学術集会で発表して頂き、論文も掲載された。

最後にリハビリテーション科Min Dongmei先生が平成26年６月から半年間リハビリテーション科中波　暁先生の下で研修された。Min Dongmei先生は平成26年10月３、４日に名古屋で開催された第123回中部日本整形外科災害外科学会学術集会において発表して頂いた。論文も掲載予定である。

市立砺波総合病院以外でも出会いはありました。

平成22年４月29日～５月２日まで台北で開催されたアジアオセアニアリハビリテーション医学会に影近先生と私が演題発表した。商　暁英先生もハルピンから参加され、台北市内を案内して頂いた。

平成23年９月15日～18日に北京で開催された第16回国際患肢温存学会に整形外科の金澤芳光先生と私が演題発表した。王　岩先生がハルピンから北京に来られ、北京市内を案内して頂いた。

今年、平成27年５月28日～５月30日まで朱鷺メッセ（新潟市）で開催された第52回日本リハビリテーション医学会学術集会に演題発表した。学会では新潟市と友好都市協定を結んでいるハルピン市との交流プログラムが開催された。商　暁英先生が団長として来日され、影近謙治先生や私と再会することができた。

今後とも出会いを大切にしていきたいと考え、中国研修生との再会を期待している今日この頃である。

五月の旅行

髙橋外科医院
髙　橋　暢　人

今年の５月３日～６日に、家族で妻の実家のある鹿児島に旅行にいきました。以前は小松空港から直行で飛行機があったのですが、現在は廃止となっています。このため空路で福岡空港→博多駅（新幹線）→鹿児島中央駅と移動し、電車にて妻の実家のある鹿児島市喜入まで片道約四時間半の旅程をこなさなければなりません。とはいえ、現在の職についてよりめったに長距離旅行する機会もないため、私と二人の小学生の子供達は行きの飛行機の段階からテンションも高く、新幹線の車窓からみえる九州の景色を堪能しながらの楽しい旅でした。

妻の実家では、義母にいろいろお世話になりましたが、九州といえば焼酎というわけで富山とはまた違う地元の料理とともにありがたく頂戴してきました。

喜入は鹿児島市のさらに南側にあり、砂蒸し風呂で有名な指宿も近いということで、砂蒸し風呂にいくことになりました。行きつけの砂蒸し風呂は以前来たときには、私たちの家族以外二組くらいしか利用者がいないような、ちょっとさびれた（だが、そこがいい）穴場だったのですが、連休中ということもあり、一時間待ちということでした。妻に言わせると、「…ありえない。」とのことでしたが、海の近くで景色もよく地熱で蒸された芋とサイダーを楽しみながら待つのもなかなかのものでした。

次の日は、流しそうめんを食べようということで、地元民がよく利用するという唐船峡の市営の流しそうめんのお店に行きましたが、これまた連休の利用客で長蛇の列…。あきらめようかと思いましたが、年に一回もこれるかどうかの貴重な機会を逃したくない私たちは、その店のちょうど裏側にあるあまり行ったことのない流しそうめんの店に行ってみることにしました。こちらも連休中ということでそこそこ人が並んでいましたが、席に余裕がありそうなのと、何故かニジマスの釣り堀があり釣ったものを焼いて提供するとのことで、子供達が大喜びで釣り上げた（どういうわけか、入れ食い）ニジマスの塩焼きと冷たいそうめんが、ことのほか美味しかったです。

しかし九州は日差しが思ったよりも強く、日焼け止めもなにもしていなかった両側前腕と頸の皮膚が真っ赤になってしまいました。結局帰ってきてからも日焼けの痛みにしばらく悩むことになりましたが、楽しい旅行になりました。家族であと何回行けるかと考えると、日焼けもまた大切な思い出というところでしょうか。

「片付けの流行」

介護療養型老人保健施設
福光あおい
髙　橋　三千代

巷では女性を中心に「片付け」が流行しています。それは提唱者によって「断捨離」「シンプルライフ」「人生がときめく魔法」と様々な呼ばれ方をしていますが共通しているのは「物を捨てる」ということです。一昔前、片付けといえば「収納」でした。100円グッズを駆使して目からウロコの収納術を披露するスペシャリストに随分影響を受けたものです。しかし時間がたつと身の回りは再び物であふれかえり「自分は片づけられない怠け者」と自己嫌悪の日々。そういえば実家の母も物をため込む人だし育った環境のせいでしょうと責任転嫁していました。しかし久しぶりに会った母から信じられない言葉が！「要らないものを少しずつ捨てようと思う」聞けば20年やってきた大好きな畑仕事を不整脈のためドクターストップで、すっぱりやめたら軒先に転がっている農作業用具がジャマに思えてきたらしいのです。そして農作業用に捨てずにとっていた押し入れの中のボロ着（私の高校時代のジャージ）も要らなくなり、捨てる物など何もないと言っていたタンスも整理しようという気になったようです。物がない時代に育ち、まだ使える物を捨てるのに抵抗がある人に片付け本の著者達はこう言います。使われもせずにホコリをかぶって、しまい込まれ忘れ去られている物は果たして大事にされていると言えるだろうか。大事な物は出して日常品として使い、心に響かないものはリサイクルやバザーに出して必要としてくれる人に使ってもらう、それもできないような物は感謝の気持ちで処分しましょう、と。それを続けると自分の手元には本当に自分が必要とする好きな物だけが残り、自分にとって大事な物に気付くことができるそうです。時勢が変われば片付けの流行も、また変わるのでしょうが槇原敬之の歌の詞に恋人と別れて思い出の品を処分しながら「ムダなものに囲まれて暮らすのも幸せと知った」とあるのを聞いて、物と自分の関係はどうだろうと考えさせられました。

母体急変時の初期対応(京都プロトコール)に参加して

津田産婦人科医院
津　田　　博

先日、北陸産科婦人科学会で母体急変時の初期対応（京都プロトコール）の実習に参加してきました。日本の産科医療レベルは高いはずなのに、妊産婦死亡は年間50例、２万出産に１例が慎重な周産期管理や産科医の技量に関わらず、現在もなお依然としてある確率で発生します。死因の第１位が大量出血、２位が頭蓋内出血で亡くなられています。

今回、京都の大学の産婦人科と救急医が協力作成された京都プロトコールを実際に京都の先生方に来ていただき３時間にわたりトレーニングを行いました。

分娩時に起こると恐ろしい疾患（出血性ショック、羊水塞栓、血栓症、頭蓋内出血、子宮内反症、アナフィラキシーショックなど）を、血圧、ECG、SpO2が自動に表示され子宮の大きさが自動に変わり、子宮からの出血（水）も出てくる模擬患者（かなり高機能のマネキン）を用いて、刻々変化していく患者の状態を医師、助産師、看護師の役に扮し、急変した症状からの病態の把握、人員を集める、バイタル、点滴、蘇生、心臓マッサージ、薬剤投与、高次医療への連絡、救急搬送といった流れでシミュレーションをしていきました。

分娩は母児ともに元気に退院して当たり前と思われている中、実際に当院でも今までno riskの妊婦が分娩中や分娩後にアッという間に蘇生が必要になることもありました。

今回の京都プロトコールに参加し、再確認と新たな知識を得られた有意義な実習でした。

昨年末に砺波総合病院の産婦人科が金沢大学の産婦人科医の減少を理由に撤退が決まり、一時はどうなるかと思いましたが、何とか富山大学からの派遣が決まり安堵しているところです。

産科救急はクリニックでは対応できないことが多く、高次医療の助けがなければ成りたたず、他の科の先生方の助けも必要になります。今後も諸先生方にはご迷惑をかけると思いますがよろしくお願いします。

新入会員紹介

市立砺波総合病院　産婦人科
稲　坂　　淳

５月11日より砺波総合病院産婦人科に出向してきました稲坂淳です。

平成10年に東邦大学を卒業し、しばらく腎臓外科として働いていました。元々故郷の北陸で子供を育てたいとの思いがあったものですから、長男が３歳になる頃に思い切って富山大学の産婦人科に入局しました。様々なことをゼロからご教授ご指導いただき現在に至っています。

私の趣味は、昔はたくさんあったのですが、今ではお酒をのむこととジョギングをすることくらいです。子供が４人いて妻は大変そうですが、昨年より妻の両親と富山市呉羽で同居しております。７月からは私は単身赴任となる予定です。

出身は石川県加賀市大聖寺、福井県との県境でもあり、正直言って富山県のことはよく知りませんでした。しかし、富山、黒部、高岡と住んでみて、自然もきれいで、人々も優しいと感じています。富山に来てよかったと家族共々思っています。

そして、今回砺波に出向となりました。若造ながらも部長職という責任を背負うこととなり、周りの皆さんのお力添えを頂戴しながら、地域のために尽力できればと思います。以前は産婦人科常勤が４人いたこともあった砺波総合病院ですが、７月からは私と女医さんの二人で精一杯がんばっていきます。ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

ものがたり診療所
川　渕　奈三栄

この度、砺波医師会に仲間入りさせて頂いた“川渕”と申します。
２年前より佐藤伸彦理事率いる“医療法人社団ナラティブホーム、ものがたり診療所”に非常勤として勤務。本年度からは常勤として関わらせて頂くことになりました。

当方は、平成12年に富山大学（旧富山医科薬科大学）医学部を卒業致しましたが、その後理由あって医師の道は選ばず、介護職として10年余り高齢者の方々に関わってきました。その関わりの中で高齢者の方々から数多くのことを学ばせてもらい、そのお礼として、多疾患を抱えていらっしゃる高齢者の方が少しでも安心して満足のできる最期の時間を過ごせるよう手助けをしたいと思うようになりました。そのためには、あまりにも医療と福祉の隔たりが大きく、その橋渡しができないものかと思い、改めて医師の道を歩ませてもらっています。この砺波でも高齢化率が26％と進んでいますが、高齢者の生活を支えていくためには、医療だけでは解決できません。福祉や社会資源、地域の住民の方も巻き込みながら多職種で関わっていかねばならないと感じています。
この砺波の地においては、他の開業医の先生方や市立砺波総合病院の先生方との連携は必須であり、地域に貢献するためにも、より深く関わらせて頂きたいと思っております。

まだまだ未熟で力不足な自分ではありますが、介護職時代の経験を活かし、当方にしかできないことを模索しつつ一歩一歩、歩んでいきたいと思います。
諸先生方には、いろいろご迷惑をおかけすることも多々あるとは存じますが、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

市立砺波総合病院　集中治療・災害医療部
廣　田　幸次郎

昨年４月より、市立砺波総合病院集中治療・災害医療部に赴任致しました廣田と申します。医師会の先生方との連携を深めるためには医師会に入会するのが一番と思いつつ、つい皆様へのご挨拶が遅れてしまいました。月日が経つのは早いもので、もたもたしている間に57歳を迎えました。新しい職場で未だ不慣れなことも多く、正直、晩期研修医といったところです。生産地は富山市で、昭和59年に金沢大学を卒業。その後麻酔科に入局し、大学院を経て、平成４年から２年間、日本医科大学の救命救急センターに勤務しました。振り返れば、家内と長女には「ほとんど母子家庭」と罵られるような生活でしたが、我が人生で最も充実した時間であったように思います。その後、金沢大学附属病院救急部・集中治療部を経て、平成９年からは厚生連高岡病院の救命救急センターに勤務。高岡では病院スタッフのみならず、消防など多くの皆様にご指導やご支援を賜りました。特に、４年前の東日本大震災では、DMATおよび富山県救護班として何度か被災地に入り惨状を目の当たりにしました。しかし、被災地の方々の優しさと正に宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の精神に触れ、改めて医療人としての原点を想い起こした次第です。20年以上前に、当時の日本医科大の大塚教授に言われた、「北陸は救急のチベットだから」という言葉は残念ながら現在も語り継がれており、今ではそんなことを言えば、「チベットの人に怒られる」という冗談まで戴くようになってしまいました。しかしながら、そんな富山にも今夏より富山県立中央病院を基地病院としてドクターヘリが漸く実現しました。今後の富山県の救急医療や災害医療がきっと大きく変わるものと期待しています。そして、2025年問題に向けて砺波医療圏の包括ケアとその入り口である救急医療に微力ながらも取り組んでいく所存です。至らぬ点だらけで申し訳ありませんが、皆様のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

砺波医師会誌　第203号
編　集　後　記

「友達の数で寿命はきまる」先日までＮＨＫのニュースwebのコメンテーターをされていた石川善樹さんの言葉です。（https://www.youtube.com/watch?v=kR18b97Gx-U）現在の医療において、「つながり」が健康のキーワード。砺波医師会においては、よりよい「つながり」（病診連携）がクリニック、病院を健康にするのではないでしょうか。病院は、紹介率、逆紹介率によって、診療報酬がかわることを例にあげればわかりやすいかもしれません。さらには、医師同士の「つながり」で医師も健康になれると信じます。ぜひ、病院の多くの先生に医師会に入ってくれないかなあ。…病院でつぶやいてみます。

山　田　泰　士　記

〔広報委員〕　山田　泰士、藤井　正則、柳下　　肇、網谷　茂樹